大阪府環境農林水産部・大阪大学大学院工学研究科・古野電気株式会社
連携協定に基づく取組
「“海ごみゼロおおさか”未来創造プロジェクト」について

大阪府環境農林水産部・大阪大学大学院工学研究科・古野電気株式会社による連携協定に基づく取組について

事業連携の目的

G20大阪サミットにて共有された「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」で示されている「2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染ゼロをめざす」社会の実現をめざし、「おおさか海ごみゼロプラン（大阪府海岸漂着物等対策推進地域計画）」を推進するため、三者が相互に連携して取り組み、大阪湾へのプラスチックごみ流入ゼロに資することを目的とする。

連携に期待すること

FURUNO

- 海洋ごみの現状把握の確度向上に向けた取組
- 流出した海洋ごみの状況把握に向けた取組
- 海洋環境に関する社会課題に対する意識向上への貢献
- 新たなセンシング技術の獲得や水産業振興による現業発展への期待

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

- 海洋環境の保全・再生に資する学術的知見の集積と基盤技術の開発
- フィールドワークを通じた実践型環境教育による人材育成
- 最先端技術を活用した地域課題解決やSDGs達成への貢献

大阪府

- 大阪湾へのプラスチックごみ流入ゼロの実現
- プラスチックごみ流出量の把握に関する先進事例
- 産学官連携の取組創出

今後の展開

2025
大阪・関西万博　開催

2030
おおさか海ごみゼロプラン目標年度
（大阪湾へのプラスチックごみ流入量半減）

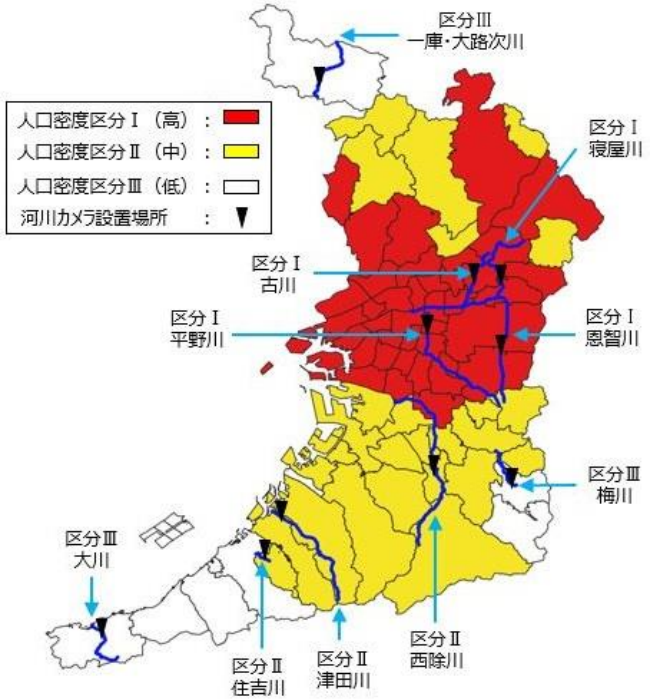
2050
大阪湾へのプラスチックごみ流入ゼロ達成！

大阪府環境農林水産部・大阪大学大学院工学研究科・古野電気株式会社による連携協定に基づく取組について

現状の課題

大阪府は「おおさか海ごみゼロプラン（大阪府海岸漂着物等対策推進地域計画）」において、「2030年度に大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減する」ことを目標に設定している。

大阪湾に流入するプラスチックごみ量の把握については、大阪大学大学院　工学研究科 中谷准教授と連携し、河川に設置された定点カメラ画像をもとに、解析にAIを用いるなど新しい技術を活用した調査推計を実施しているものの、次の課題がある。

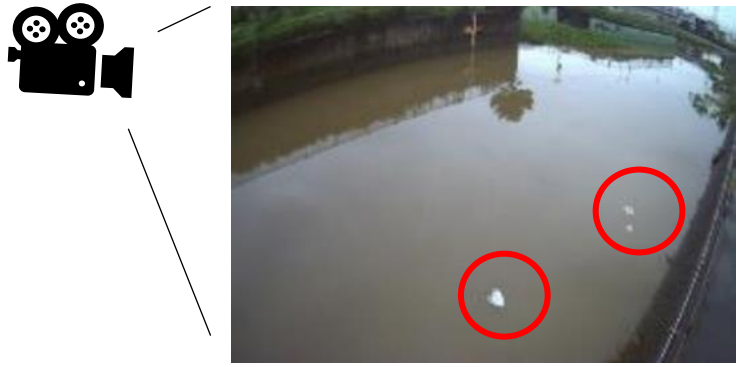


＜課題１＞

定点カメラの構造上、川幅の広い淀川・大和川といった大河川や河口域での調査・推計ができない。

＜課題２＞

画像で把握できるのは浮遊ごみに限られるため、水中から大阪湾へ流れ込むごみの動態や海底ごみの実態については、把握できていない。



三者の連携を通じ、それぞれが目標達成に向けて調査研究・取組を推進するとともに、課題・成果等について共有して連携して取り組み、大阪湾へのプラスチックごみ流入ゼロをめざす

大阪府環境農林水産部・大阪大学大学院工学研究科・古野電気株式会社による連携協定に基づく取組について

取組方針

それぞれの強みを活かし、1～3の取組方針に基づき、「大阪ブルーオーシャン・ビジョン」の実現に貢献する。

FURUNO	大阪大学 OSAKA UNIVERSITY	大阪府
水中のプラスチックごみ量の調査・解析、観測技術の開発・ネットワークの構築	水面のプラスチックごみ量の調査・解析、大阪湾流域圏の海陸プラスチックごみ動態の解明、推計手法の高度化	テーマ選定、評価・実験場所選定等の調査の支援、府民への情報発信、府内市町村との連携

1. 河川から大阪湾に流入するプラスチックごみの推計精度の向上に向けた観測技術の開発

(1)流域人口が多く、かつこれまでに調査ができていない淀川・大和川を主要な観測ターゲットとして、
河川から流出するごみ量の新しい観測技術を開発

(2)河川からの流出ごみの推計精度の向上につながる観測システム手法の開発や、
開発した観測システムを複数河川に展開し、多点同時観測ネットワークの構築を検討

2. 事業連携に基づく調査研究の結果等の情報発信

広域的な連携を推進するため、対外的な情報発信を推進

3. 海洋プラスチック問題に関する地域住民への啓発

住民ひとり一人の行動変容を促すため、イベントや環境教育の中で海洋プラスチック問題の啓発を推進